

2017～2018年度
国際ロータリー第2780地区
地区職業奉仕委員会

「内向き」と「外向き」
わかりやすい
職業奉仕

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

目次

「内向き」と「外向き」わかりやすい職業奉仕

1. 発刊に寄せて	ガバナー 大谷 新一郎	1
2. 「内向き」と「外向き」?	職業奉仕委員長 瀧澤 秀俊	2
3. 奉仕に学び 職業で奉仕する		
「内向き」と「外向き」わかりやすい職業奉仕	職業奉仕委員長 瀧澤 秀俊	4
4. 外向き職業奉仕の実践例		
(1) 職業上の手腕活用プロジェクト		23
(2) 次世代に職業を語るプロジェクト		27
5. 2017-18 職業奉仕卓話講師派遣一覧		31
6. 資料編		
(1) 職業宣言と行動規範の変遷		33
(2) ロータリー章典		35
(3) 標準ロータリークラブ定款		37
7. 編集に寄せて		38

わかりやすい職業奉仕

発刊に寄せて

2017～18年度ガバナー 大谷 新一郎(相模原南RC)

地区職業奉仕委員会の瀧澤委員長始め委員の皆様、本年度の活発な委員会活動に心より感謝申し上げます。私がかつて地区職業奉仕委員会に参加したのは、今から18年前の平成12年でした。竹内万也パストガバナーが委員長をされ、何もわからない中、初めて地区委員会に出てとまどいの日々を送ったのを覚えております。フォーラムには深川純一パストガバナー(2680地区、伊丹RC)をお



迎えし、「職業奉仕の原理とその実践」と題し、わかりやすくお話いただきました。その時の衝撃は大変大きなもので、目からウロコとはこのようなことかと思った次第です。今でも私の職業奉仕のバイブル的存在です。

そして本年度、瀧澤委員長以下委員の皆様のご熱意により、一年間の委員会活動の成果をパンフレットにまとめたいという話を聞き、大変うれしく思うのと同時に、大いに期待をしております。職業奉仕関連の資料はとても多いのですが、どれもむずかしく理解するのにかなりの勉強が必要です。皆様も職業奉仕はむずかしいという印象をお持ちではないでしょうか。

しかし、2016年の規定審議会の改定により、職業奉仕の理解が少し身近になったように思います。つまり職業奉仕が、個々のロータリアンの内面的職業奉仕(内向き)とクラブの対外的活動としての職業奉仕(外向き)に、わかりやすく分類されたのであります。そもそも職業奉仕とは、「四つのテスト」に代表される奉仕の理念や倫理観を持って職業を行い、その結果として職業を通じて社会に貢献し奉仕することではありますが、今年度委員会では、それを「内向き」と「外向き」に分けて整理し、わかりやすい実例を出しながら解説されました。多くのクラブでの卓話やIMでも職業奉仕をテーマとして取り上げていただき、地区内に、ロータリーの根幹である職業奉仕を改めて論じ合う雰囲気生まれました。むずかしい用語は避け、身近な例え話を用いて表現されたため、とてもわかりやすいとの評価をいただいたようです。毎回活発に真摯な活動をされた瀧澤委員長と委員の皆様にご敬意を表し、パンフレットの刊行を心からお慶びして、お祝いの言葉とさせていただきます。

「内向き」と「外向き」?

地区職業奉仕委員長 瀧澤 秀俊(藤沢RC)

「内向き」と「外向き」。職業奉仕についてそんな説明はこれまで聞いたことがないと思います。職業奉仕とは、他の奉仕団体や慈善団体と区別するロータリーの根幹理念であり、とても大切な真髄であるということは分かっていますが、それを正しく理解し、正しく行動することは容易ではありません。既に多くの解説がありますが、倫理観精神論に踏み込んだ理念的なものが多く、実際に一人一人のロータリアンが、職場で、あるいはクラブの活動として、実際にどう考え、どう行動すればいいのかが、イメージが湧きにくいものが少なくありませんでした。

そんな時、「ロータリーの友」2017年1月号の本田博己氏の論稿を読んで衝撃を受けました。2016年規定審議会で、標準クラブ定款に、会員の職業上の手腕を活用するクラブの対外的職業奉仕プロジェクトが明記されたことをふまえ、伝統的職業奉仕論を超えて、クラブの対外的活動の枠組みで職業奉仕をとらえよう、というのです。そこで私は考えました。ロータリアンの内面的行動規範としての職業奉仕(内向き)と、クラブの対外的活動としての職業奉仕(外向き)を分けて見たらどうだろうか。そう考えると、これまでのモヤモヤがスッキリしてきました。また、当地区で2000年に発行された冊子「職業奉仕その理解と実践のために」(竹内万也委員長編集)の深川純一氏の深遠なる講演録も大いに参考になりました。そして委員会にて議論を重ね、卓話要請に応えられる新しい職業奉仕論が完成いたしました。そこでは、標準クラブ定款と「四つのテスト」を拠り所とし、職場やクラブにおいてロータリアンはどう考えどう行動すべきかを、できるだけ具体的なイメージが湧きやすいように工夫をしています。おかげ様で多くのクラブにて卓話させていただき、「とてもわかりやすい」と好評をいただきました。反面、ロータリーの歴史や格言・標語などにはほとんど言及しておらず、諸先輩から見ると違和感があるかもしれません。そこは、これも一つの職業奉仕論としてご寛容いただければ幸いです。

職業奉仕とは「奉仕に学び 職業で奉仕する」こと。それはロータリアンが目指すべき崇高な理想です。本書が皆様の職業奉仕の理解と実践の一助となりますよう、心より願っております。

また、本書の刊行に多大なるお力添えを賜りました大谷新一郎ガバナー、栗林一郎地区幹事、地区職業奉仕委員の皆様へ、心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。



奉仕に学び 職業で奉仕する

「内向き」と「外向き」わかりやすい職業奉仕

職業奉仕委員長 瀧澤秀俊



わかりやすい職業奉仕

質問します！

最初に皆さんにいくつか質問をします。自分ならどうするか考えてみてください。

問1 あなたの会社で作った製品は保証期間が1年です。お客様が、製品が故障したと修理を依頼してきました。しかし、購入から1年半が経っています。しかもよく見ると、自然の故障ではなく、使い方に間違いがあったことを隠しているようです。さあ、あなたならどうしますか？

- ① 有償で修理する。
- ② 無償で修理する。



問2 あなたの会社は自動車部品製造です。主力製品に欠陥があることが判明しました。欠陥は客の命に関わるほどではありませんが、これを公表して全品回収修理をすると莫大な費用がかかり、倒産の可能性が大了。さあ、あなたならどうしますか？

- ① 公表しないで、順次改良品に切り替えていく。
- ② すぐに公表して、全品回収修理する。



問3 あなたはお菓子屋です。地域の特産品を使って新たに特別レシピを開発し、大ヒット商品となりました。マスコミにも取り上げられ、注文が多すぎて生産能力を超えています。さあ、あなたならどうしますか？

- ① 工場を作って量産体制に入る。
- ② 近隣の同業者にレシピを公開する。



問4 あなたは建設業です。下請け業者と契約調印した後で、その下請け業者から、人工計算を間違えており、このままでは大赤字になる、契約をやり直して欲しいと要請が来ました。さあ、あなたならどうしますか？

- ① こちらも準備を始めているし、そのまま行く。
- ② 契約をもう一度やり直す。



分かれ道と道しるべ

このように、日々の仕事の中で難しい選択を迫られた時に、「ただのビジネスマン」として行動するか、それとも「ロータリアンらしく」行動するかがまさに問われています。

では、「ロータリアンらしい行動」というのはどうすればいいのでしょうか。

それは、「奉仕の理念」にのっとり自分自身を律し、職業を遂行することですが、まだピンと来ませんよね。



では、もう一つ質問します。

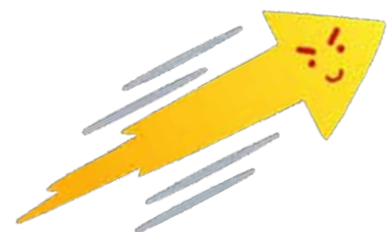
問5 ロータリアンといえども、仕事が成功して経営が安定しなければ奉仕もできません。仕事を頑張り、ライバルに打ち勝って利益を上げ、そしてその儲けから、ロータリー財団に高額の寄附をし、ガバナーから表彰されました。これも、1つの「職業奉仕」である。○か×か？

答えは「×」です。

仕事で儲けたお金を寄付することも尊い奉仕であり、素晴らしい善行です。しかし、それは「ただの奉仕」。それだけなら、世の中に数ある慈善団体や奉仕団体と何も変わりません。赤い羽根の募金箱に100万円を入れても、それを「職業奉仕」とは言いません。その程度で「職業奉仕」が達成できるなら、ロータリーの真髄だとか根幹理念だとは言わないでしょう。

ロータリーは、

さらにその一歩上を行きます。



わかりやすい職業奉仕

キーワードは「職場に持ち帰る」

ロータリーは、寄付や奉仕活動をするのが最終目標ではありません。

寄付や奉仕活動に参加したり、例会の卓話などで勉強した「奉仕の理念」を自分の職場に持ち帰ります。そして、職場で、自分のため会社のためだけでなく、真実・公平・世のため人のためを考え、時には自己犠牲も厭わない、さらに言えば「四つのテスト」を社是社訓として、自分自身を律し、日々の仕事に邁進する。そして自分の職業を通じて、職業で世の中に貢献し、奉仕する。そこまでやって初めて「職業奉仕」となるのです。

このように言うと皆さんは、「そんなのは理想論だよ！」「自己犠牲の経営なんて無理無理！」「会社経営は甘くない、社員も家族もいるんだよ。」と思いますよね。

そうなんです。ロータリーはかなり高度な理想、ハイレベルな倫理観を求めているのです。誰でも簡単に実現できることではありません。経営者には責任があります。できればそうしたいけれどと思いつつ、自社の利益を優先することもあるでしょう。

しかし、それでもなお奉仕の理想を求め続けるのがロータリーです。だからこそロータリアンは世界中で尊敬され、難しいからこそ生涯をかける価値があるのです。



それにしても、ロータリーってすごいですよね。職業人が、仕事をしながら世のため人のためを考えよう、仕事を通じて社会に貢献しようなんて、何だかカッコいいと思いませんか。

「職業」と「奉仕」

そもそも、「職業」とは自分のための金儲けの手段であり、現実の世界です。一方「奉仕」は世のため人のためを考える理想の世界。冒頭の質問でも、「職業」と「奉仕」のどちらに重きを置くかで答えは真っ二つに分かれます。

そんな正反対の2つの概念が合体しているのが、「職業奉仕」はイメージしにくく、難解になってしまうのです。

そんな相反する「職業」と「奉仕」。いったいどうやったら折り合いが付くのでしょうか。この点がわかれば、「職業奉仕」がわかるんです。



Profession と Business

それについて、「ProfessionとBusiness」という説明があります。

中世ヨーロッパの聖職者・僧侶(Professionプロフェッション)は、人々にひたすら神の道を説き、愛情と微笑みを持って接し、悩みを救います。人々は心から感謝し、お布施を差し出します。聖職者はそれで収入を得ますが、しかしそれは結果にすぎず、聖職者から請求するものではありませんし、貧しければ出さなくても良いのです。それ故に、聖職者は誰からも尊敬され信頼されるのです。これがProfessionという職業であり、生き様です。

これに対して経済人・商人(Businessビジネス)は、事業による自らの経済的成功と繁栄を目指して日々の仕事に励みます。物を売り、サービスを提供して、対価を請求します。



2つは一見正反対ですね。この2つが合体した「職業奉仕」というのは、professionの精神をもってBusinessの世界をコントロールして行こう、平たく言うと「聖職者の心で商売しよう」という考え方なのです。

利益のためには手段を選ばず、同業者を出し抜き、打ち負かしてでも利益を獲得し一人勝ちを目指す、売れるまでは客に頭を下げるが、売れてしまえば後は知らない、なんていうのはダメです。聖職者のような心で相手のことを考える、世のため人のため・真実・公平も考えながら、時には自己犠牲を払ってでも、みんなが幸せになれるような商売をしましょう。まさに「三方良し」(「売り手良し、買い手良し、世間良し」という近江商人の心得)と同じです。そんな聖職者の心で商売をコントロールできれば、「職業」と「奉仕」は同じ方向(世のため人のため)を向き、全く矛盾しないものになるのです。

聖職者の心で商売する。やっぱりロータリーってすごいですよね。とても高い理想であり実現は簡単ではありませんが、私たちは縁あってロータリアンになったのですから、聖職者の心、奉仕の理念を念頭において、それを道しるべとして日々の仕事に励みたいものです。

奉仕の理想

ロータリーソング「奉仕の理想」。皆さん普段何気なく歌っていると思います。「**奉仕の理想に集いし友よ御国に捧げん我らの業**」

それは「**奉仕をしよう**と集いし友よ」ではありません。奉仕活動をするためだけに集まったのではなく、奉仕活動を通じて学んだ奉仕の心を、一人一人が職場に持ち帰り、その奉仕の心で仕事をして、各自が職業を通じて世の中に貢献する、そんな「理想」を追い求めましょう！と歌っているのです。この短い歌詞には職業奉仕のエッセンスが凝縮しています。これこそが「職業奉仕」なのです。

わかりやすい職業奉仕

標準ロータリークラブ定款

以上のような職業奉仕の意味合いは、標準ロータリークラブ定款にもちゃんと書いてあります。

第6条2「職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していく」という目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念にしたがって自分自身を律し事業を行うことが含まれる。」(一部略)

まさに、自分の職場で、職業を遂行する上で、「奉仕の理念」を道しるべ(行動指針)としましょう、それこそが「職業奉仕」ですよと明記されています。

ロータリアンらしい行動とは

さて、「Profession」とか「奉仕の理念」とか抽象的な説明が続きましたが、もう少し具体的に、私たちが日々の職場において、具体的にどのように考え、どんな行動をすればいいのか考えてみましょう。

「ロータリアンらしい行動」とは実際どうすれば良いのでしょうか。

賢明なロータリアンはもうお気づきのことと思います。ロータリーには、奉仕の理念をととてもわかりやすい言葉にした行動指針がありますよね。そうです、「**四つのテスト**」です。

- ①**真実か どうか**
- ②**みんなに公平か**
- ③**好意と友情を深めるか**
- ④**みんなのためになるか どうか**

端的に言ってしまえば、この「四つのテスト」を社是社訓として、日々の自分の仕事の中で、折に触れ「四つのテスト」を唱え、それに従って決断し、行動すればよいのです。冒頭の質問のように、仕事で難しい選択を迫られたとき、自分と相手の利害が対立するとき、会社の進むべき道に迷ったとき、ロータリアンは「四つのテスト」を思い出しましょう。それを唱え、それに従った決断と行動をすれば良いのです。

そのような、「四つのテスト」を道しるべとする仕事ぶり、それこそがロータリアンらしい行動であり、「職業奉仕」なのです！

「四つのテスト」の由来



そう考えると「四つのテスト」ってとても重要ですね。皆さんも「四つのテスト」は例会で何気なく唱和されていると思います。これって、一体誰が、いつ頃作ったものかご存じですか。

1932年、大恐慌の時代、バタバタと企業が倒産し、商業倫理もずさんでいました。そんな中、シカゴの実業家ハーバート・テイラーさんは、倒産寸前のアルミ食器会社の再建を依頼されました。

その後、テイラーさんの手腕と努力によって会社は見事に立ち直り、10年後には一流企業に成長しました。その大成功の秘訣が「四つのテスト」でした。テイラーさんは、荒廃した社会風潮の中で、他社にない清廉な倫理観や世の中に模範となるような価値観を、わずか4行のわかりやすい言葉で作し、全従業員に暗唱させ、日々の仕事の行動指針としました。従業員たちはお客や取引先と接するとき、「真実・公平・みんなのため」と唱えながら仕事に励みます。相手は驚き、感動し、信頼し、そして次の仕事も依頼しました。こうして、次第に大きな成功につながっていったのです。

テイラーさんは、この成功の秘訣を独り占めにしませんでした。惜しげもなく公開し、1954年、RI会長就任に際して、「四つのテスト」の権利をRIに無償で譲渡したのです。

以来、「四つのテスト」は、ロータリークラブの職業奉仕の理念を端的に表すものとして、世界中のクラブで提唱されているのです。

「四つのテスト」に従った仕事

ではさらに具体的に、「四つのテスト」にのっとった仕事ぶりというのは、どうすればいいのでしょうか。

①「真実か どうか」

昨今、大手企業のデータ偽装や隠蔽が発覚して、謝罪会見がくりかえされています。ロータリアンは「真実」を尊び、偽装や隠蔽を許しません。虚偽誇大広告・データ偽装・品質表示偽装などは絶対にいたしません。真実の情報を積極的に公表します。

それを公表することで会社は大きなダメージを受けるかもしれません。しかし、虚偽はいずれ発覚します。そして隠蔽行為はよりいっそう信用を失墜させます。逆に、ダメージを覚悟して真実を貫くあなたの姿勢を世間は尊敬し信頼するでしょう。そして近い将来、あなたはより大きな成功を収めるのです。

②「みんなに公平か」 ③「好意と友情を深めるか」 ④「みんなのためになるか どうか」

他社を出し抜き、蹴落とし、取引先やお客を泣かせて一人勝ちをするのではなく、できうる限り地域全体、業界全体の共存共栄を目指しましょう。時にはノウハウを独り占めせず公開しましょう。利益の適正分配を目指しましょう。下請けあつての元請けです。お客や取引相手に多少のミスがあっても、お互い様と寛容しましょう。賄賂や接待で不公平な扱いはやめましょう。

このような世のため人のためを考えた行動は、時に自己犠牲を伴うこともあるでしょう。しかし、これがロータリアンらしい行動であり、そのような職業遂行の姿勢こそが「職業奉仕」なのです。

答え合わせ

ここまで来れば冒頭の質問の答えはもうお分かりですね。「ロータリアンらしい行動」が見えてきました。

問1 保証期限切れであっても、杓子定規に対応せず、できる限り寛大に、お客様の利益も考慮して、無償で修理ができないかどうか考えましょう。事実を隠していたお客は、あなたの寛大な行動を見て自らの行動を恥じ入り、さらにあなたの会社のファンになるでしょう。評判は高まり、より大きな成功に結びつくのです。

問2 「欠陥」を隠すことはダメです。速やかに公表し、謝罪しましょう。そして全力で回収修理に取り組みましょう。それは大きなダメージを伴います。反対意見もあるでしょう。しかし、真実を尊ぶあなたの真摯な姿勢を見て、きっと支援の手をさしのべる人が現れます。そして世の中の人々はあなたへの信頼を失わないでしょう。

問3 お菓子のレシピを公開しましょう。今まで手作りで品質を追求してきたものを、売れるからといって工場生産したのでは品質低下は免れません。近隣同業者にレシピを公開し、それを地域の名物にして、共存共栄と町興しに貢献しましょう。幸せを分かちあうあなたの店は、「元祖」としてさらに信頼を獲得するのです。

問4 請負契約が成立していても、間違えた方が悪いといって突き放すのではなく、下請けの立場も考慮して、契約をやり直してあげましょう。あなたの寛大な姿勢に下請け業者は感激し、その恩に報いようといっそう良い仕事をするでしょう。結局それは、あなたの会社の評価となって帰ってくるのです。

このように、仕事で難しい選択を迫られたとき、まずは他者より自己の利益を優先することは自然です。しかしそれは「ただのビジネスマン」の行動です。「ロータリアンたる職業人」は、そんなときにこそ「奉仕の心」「聖職者の心」で仕事をするのが求められます。「真実・公平・みんなのため」。そんな姿勢で仕事ができるあなたは、だれからも尊敬され、信頼を集め、いずれはより大きな成功に結びつくでしょう。

「奉仕は人のためならず」。やっぱりロータリーってすごいですよね。ロータリーの奉仕活動の中で「奉仕の理念」を学び、職場では「奉仕の理念」で自分を律し、職業を通じて社会に貢献し奉仕する。職業で世の中を良くしていく。そしてみんな幸せになっていく。それは決して簡単なことではありませんが、縁あってロータリアンとなったからには、そんな高い理想を追求していきたいものです。

最終的な経営判断

卓話でこのような例題を出し、「ロータリアンらしい行動」について説明をしていると、それはおかしい、質問の答えは間違ってる、とおっしゃる方がいます。保証期限を設けた意味が無くなる、保証期限を過ぎて無償修理をしたら逆に不公平になるだろう、また秘伝のレシピを公表しろというのはおかしい、自己犠牲で成功した企業があるのか、判断の押しつけだ…

まさに、「職業」(現実)と「奉仕」(理想)のぶつかり合う場面であることがよくわかりますね。勘違いをしないでいただきたいのは、私はあくまで「ロータリアンらしい行動とはどういうものか」ということを説明しているのです。決して事業者としての経営判断を決めつけているのではありません。経営判断は単純ではなく、様々な情報や要素を総合考慮し、悩みに悩んで最終決断するものです。「ロータリアンらしい行動かどうか」も、そのような時の判断材料の1つに過ぎません。「真実」の公表を止まってでも自社を守らなければならない苦渋の選択もあるでしょう。他社を出し抜いても勝ち切らないといけないときもあるでしょう。会社の伝統や従業員を守る責任は経営者であるあなたの双肩に重くのしかかっています。「ロータリアンらしさ」「ロータリアンとしてあるべき姿」を考慮してもなお、今は自社の利益を優先させるという決断は、これまた尊いものだと思います。仕事上の分かれ道に立ったときの最終的な経営判断は、全てあなたの中にあります。

「職業奉仕」とは、ロータリアンは24時間365日、常に奉仕の心で仕事をすべきだと言っているのではありません(それでは本物の聖職者です)。職業人である以上、まずは自分のビジネスの成功を目指して最大限の努力をします。その上で、ロータリアンたる職業人として大切なことは、日々の仕事の中で、分かれ道に立ったその時に、「ロータリアンらしさ」「奉仕の心」を思い出し、それに従って決断し行動することができるかどうか、そして、その時に備えて日頃から奉仕の理念を学んでいるかどうかということではないでしょうか。

「内向き」と「外向き」

これまでの説明で、「職業奉仕」の基本的な意味がご理解いただけたと思います。クラブでの奉仕活動を通じて学んだ「奉仕の理念」（「四つのテスト」、聖職者の心）を自分の職場に持ち帰り、自分自身を律し、真実・公平・世のため人のためを考えながら、誠実に仕事に邁進する。そして自分の職業を通じて世の中に貢献する。これが「職業奉仕」です。

それはロータリアン一人一人の内面的な行動規範であり倫理観でもあるので、理解の整理のために「**内向きの職業奉仕**」と呼びます。

職業奉仕をこのような内面的な精神論や倫理観を中心にとらえるのがこれまでの一般的な傾向でした。そのため、どうしても難解でイメージしにくく、人によって様々な説明になっていました。

しかし、職業奉仕をこのように内向きな倫理観、精神論を中心にとらえるのは、どうも世界中で日本ロータリー特有の状況のようです。良い行動はことさらアピールしないという、隠匿の美の思想があるのかもしれませんが。

他方、海外のロータリーでは、「クラブの対外的奉仕活動」の枠組みの中で職業奉仕をとらえているようです。

もう一度、標準ロータリークラブ定款を見て見ましょう。

第6条は「**本ロータリークラブの活動の実践的基準**」として五大奉仕（クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕）を列記しています。「職業奉仕」も他の四大奉仕と同様に、クラブの活動の実践的基準とされています。他の四つの奉仕と区別して中核理念だとか上位概念だとかはどこにも書いてありません。クラブは、社会奉仕や青少年奉仕などと同様に、職業奉仕の実践活動をすることが求められているのです。

では、クラブで「職業奉仕」を実践する活動って一体何をすればいいのでしょうか。皆さんのクラブでは、職業奉仕としてどんな活動を実行されていますか。工場見学でしょうか。私自身もこれまで、クラブで行う「職業奉仕」の活動って何だろう、というモヤモヤした思いがありました。

2016年規定審議会の改正

そんな中で、2016年規定審議会の改正がありました。クラブの例会運営の柔軟性を広く認めたことなどで話題になりましたが、職業奉仕の定款規定でも重大な変更がありました。

標準ロータリークラブ定款第6条2

「職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念にしたがって自分自身を律し事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。」
(一部略)

2016年規定審議会の改正で、下線部分が追加されました。

前段部分はこれまでの「内向き職業奉仕」ですが、追加された部分はクラブが対外的活動として行う職業奉仕の実践の形、いわば「**外向き職業奉仕**」を示しています。

- ① 『**自己の職業上の手腕を**』
- ② 『**社会の問題やニーズに役立てるために**』
- ③ 『**クラブが開発したプロジェクトに応える**』

つまり、会員の職業上の技術・経験・ノウハウ・スキルなどを活用して、社会の問題やニーズに応じて役立てる。それをクラブのプロジェクトとして実施する。これもまた、職業で世の中に貢献し奉仕するということであり、クラブが行う対外的な職業奉仕の実践だということです。

こうして標準クラブ定款に「外向き職業奉仕」の要件が明記されたことで、これまでモヤモヤしていた、「クラブで行う職業奉仕って何？」の答えが非常にすっきりと整理できました。

外向き職業奉仕の実践例

もっとも、これは突然新しいことを言い出したのではありません。会員の職業上の手腕を活用しましょうということは以前から言われていましたし、すでにそのようなクラブの奉仕プロジェクトはたくさんありました。

事例1

ロータリアンの歯科医師が、カンボジアの山村の子どもたちの歯科検診と歯磨き指導を毎年行っています。このエリアは元々歯磨きの習慣が無く、虫歯になっても抜けるに任せていたようです。そこに歯科医師が出向いて行って、検診をし、歯磨きを指導します。地区補助金を利用したり、クラブで活動資金を支援したりしています。地元からは大変喜ばれており、これからもできるだけ継続していきたいと考えています。



事例2

大震災の時、水道断裂で苦しむ被災者のために、水道工事業者のロータリアンが、現地でボランティアで水道復旧作業に取り組みました。また、様々な問題が噴出し混乱する被災地で、弁護士・税理士・建築士などが無料相談会を開催しました。



その他にも、多くのクラブで、会員の職業上の手腕を活用した奉仕プロジェクトが実施されていますが、それが「職業奉仕の実践」であるとは明確に意識されず、「社会奉仕」「青少年奉仕」「国際奉仕」の活動として実践されている事例はたくさんあるはずです。

是非、クラブで見直してみただければと思います。

ところで、「職業上の手腕を活用する」というと、歯科医師や水道事業者や弁護士のような資格者や技術者でなければ、外向き職業奉仕はできないのでしょうか？

いいえ、そんなことはありません。その会員の「職業上の手腕」を中心にして、クラブ全体の奉仕プロジェクトとして企画し実施すればいいのです。現地で作業を手伝う人。現地には行けないが活動資金を支援する人。広報宣伝活動をする人。どれも立派な「職業奉仕」なのです。

五大奉仕の相互の関係

これまで、「職業奉仕」は五大奉仕の1つではあるけれど、内面的な倫理観や行動規範という本質があるため、他の四つの奉仕と直接交わることはなく、五大奉仕の中核的理念だとか、他の四つの上位概念だなどと言われて、別格扱いされることが多かったように思います。「内向き職業奉仕」の側面で見ればそうなることも当然でしょう。

しかし、「外向き職業奉仕」、つまりクラブの対外的奉仕プロジェクトとしてみればどうでしょう。先ほどの『カンボジアの子どもの歯科検診』は、職業上の手腕を活用した「職業奉仕」であると同時に「国際奉仕」であり、「青少年奉仕」でもあります。

『大震災の被災地での無料相談会』は、「職業奉仕」であると同時に「社会奉仕」でもあり、それらに他の会員も参加してクラブが活性化すれば「クラブ奉仕」でもあります。

つまり、「外向き職業奉仕」としてみる限り、五大奉仕はバラバラではないのです。

職業上の手腕を活用した「クラブ奉仕」

職業上の手腕を活用した「社会奉仕」

職業上の手腕を活用した「国際奉仕」

職業上の手腕を活用した「青少年奉仕」

「職業奉仕」が縦糸となり、他の四つの奉仕が横糸となって互いに絡み合い、織りなす布で社会に貢献し奉仕をするのです。

標準ロータリークラブ定款6条が、五つの奉仕を並べて「本ロータリークラブの活動の実践的基準」と明記しているのは、まさにこのような相関関係と相乗効果によって奉仕の理想を実践していくことを期待しているように思います。

まとめ 2016年規定審議会改正が教えてくれたこと

「職業奉仕」は「内向き」と「外向き」に分けるとわかりやすくなります。

① 内向き職業奉仕

ロータリアン一人一人が、奉仕活動の中で「奉仕の理念」「四つのテスト」を勉強し、それを自分の職場に持ち帰ります。そして「奉仕の理念」や「四つのテスト」に照らして自らを律し、自分の仕事を遂行します。自分の職場で、自分の職業を通じて、奉仕の理念を実践し、世の中に貢献奉仕していきましょう。

② 外向き職業奉仕

会員の職業上の手腕を、社会の問題やニーズに役立てるためのクラブの奉仕プロジェクトに活用しましょう。

わかりやすい職業奉仕

もう一つの「外向き職業奉仕」

「職業を語ろう！」プロジェクト

ロータリーは多種多様の職業人の集団です。企業経営者の集まりは他にもたくさんありますが、個人事業主、士業、医師などを含めた多種多様な業種の職業人が、奉仕の目的で一堂に会する団体、それがロータリークラブの最大の特徴です。その「職業の多様性」という特徴を活かして、クラブが職業で社会に何か貢献できないでしょうか。

それが、「職業を語ろう！」プロジェクトです。

若者は世の中にいろいろな職業があることを知りません。親もちゃんと説明できません。やりたい仕事が見つからず、いつまでもフリーターやアルバイトしかやらない若者が増えています。

そんな若い世代が将来を考える一助になったら良いですね。将来、必ず職業選択の時が来る若い世代に、職業の内容・社会的意義・楽しさ・苦労を伝えることも、私たち職業人の責務ではないでしょうか。

多様な職業人の集団であるロータリークラブが次世代に職業を語る、それもまた職業で社会に貢献することであり、「外向き職業奉仕」そのものだと思うのです。

すでに、素晴らしい「職業を語ろう！」プロジェクトが実践されています。

① 大和ロータリークラブ「さまざまな職業の方と語る会」(2007.11.13) ※本書29頁

20名の若い職業人(警察官、CA、調理師、消防士など第一線で活躍する人たち)が中学生に出向き、それぞれ職業を熱く語りました。それに参加した子どもたちの純粋な感想も実に素晴らしいものでした。

② 相模原南ロータリークラブ「フィチャーナビスクール」(2017.3.7) ※本書30頁

9名のロータリアンが女子校に出向き、法律・税務・医療・農業・歴史など職業を語りました。社会に一步近づいている高校生の反応はさらに現実味があり、素晴らしい企画でした。

③ そのほかにも出前授業や子どもたちの職場見学会を企画されているクラブはたくさんあると思います。

そこで提案します。皆さんのクラブで「職業を語ろう！」プロジェクトを企画しませんか。各クラブで繋がりのある中学校・高校に出かけて行って、いろいろな職業を語る会を企画し実践しましょう。今、学校側も社会教育には積極的に取り組んでいますので、きっと素晴らしい企画が実現できると思います。ロータリアンは社長さんが多いので、それも良いですが、できれば現場の一線で働く人に来てもらえるリアリティがあっていいですね。

さらに言うと、若者に職業を語るためには、同時に、ロータリアン自身が、日々の仕事で職業奉仕を実践しているかどうかを見つめ直す良い機会になると思います。

また、学校関係者にロータリークラブのことを広く知ってもらうことで、公共イメージ向上にも繋がるでしょう！

そして、この企画でロータリークラブの素晴らしさを知ってくれた若者が、将来インターアクトやローターアクトになり、いつかロータリアンになってくれたら、こんなにうれしいことはありません。

ぜひ各クラブで検討してみてください！

職業奉仕の勘違い？

「職業」や「仕事」が絡んでいけば「職業奉仕」であると、かなり拡大解釈されている方も少なくないようです。以下に、いくつか事例を示します。それらをネタにしてぜひクラブで議論をしてみてください。きっと職業奉仕の理解が深まってくると思います。

① 例会欠席

例会日に大事な仕事が入ってしまったので、欠席届を出して、仕事を頑張りました。これも「職業奉仕」の1つである。○か×か？

これは「×」ですね。欠席の言い訳に職業奉仕を使うのはやめましょう。職業を通じて奉仕の理念を実践し、職業で社会に貢献奉仕すること、それが職業奉仕です。

② 仕事を休んで..

クラブで障害者福祉施設に慰問に行きました。自分の仕事を休んで、仕事の時間を犠牲にして奉仕活動に取り組んだのだから、これも「職業奉仕」である。○か×か？

これも「×」です。職業を通じて奉仕する、職業で社会に貢献する、それが職業奉仕です。

③ 売り上げを寄付

冒頭(問5)でご説明したように、仕事の売り上げを寄付しただけでは職業奉仕ではありません。

④ 工場見学

クラブの企画で、会員一同が近隣の工場を訪問し、最先端のAIやオートメーションを見学しました。素晴らしい職場環境や設備を見て、とても勉強になり、自社でも取り入れたいと思いました。これも「職業奉仕」の1つである。○か×か？

答えは「×」だと思います。

多くのクラブで工場見学を実施しています。問題は、その工場に行って何を学ぶのかです。単に、オートメーションや技術を見学するだけなら、それは普通の社会勉強であり、小学生でもやっていること。ロータリークラブの職業奉仕活動として特別の意義が見いだせるかどうかの問題です。

もちろん親睦(クラブ奉仕)としては有意義ですので、そのような企画自体を否定するものではありませんが、職業を通じて社会に貢献奉仕するという本来の「職業奉仕」の活動と言えるかどうかは疑問が残ります。

わかりやすい職業奉仕

ただし、その工場が「四つのテスト」を社訓とし、社員みんなで唱和していたらどうでしょう。あるいは障害者を積極的に雇用して社会的自立を支援している工場ならどうでしょう。そんな工場の従業員はどんな思いで仕事をしているのでしょうか。そのように、「奉仕の理念」を日々の業務の中で実践している職場を見学することは、ロータリアンとしてとても勉強になりますよね。まさに職業奉仕として有意義な活動であり、答えは「○」です。

さらに、先ほどご説明した「外向き職業奉仕」として、クラブが会員の職業上の手腕を活用する対外的プロジェクトを企画しているときに、その技術ノウハウを実際に運用している職場に行ってみるなら、それも立派な職業奉仕であり「○」と言えるでしょう。例えば、公園の植栽を子どもやお年寄りたちと一緒にリニューアルして憩いの場にするプロジェクトを企画したとします。その準備として、会員の造園業者や種苗業者の職場に行き、植栽技術を勉強することは有意義な職業奉仕と言えるでしょう。「○」です。

ポイントは、その工場・職場に行き、何を見学するのか、その工場に「奉仕の理念」や「四つのテスト」があるのかどうかだと思います。そういう視点を持ちながら、クラブでも議論をし、工場見学や職場見学の企画を考えましょう。

⑤ 無料相談会

クラブの会員の弁護士・税理士・建築士など様々な専門家が、駅前にブースを出し、ロータリーの看板を掲げて、「無料相談会」を開催しました。通りすがりの市民が大勢相談に来て、大好評となりました。これも「職業奉仕」のひとつである。○か×か？

実施しやすく、市民の受けも良いので、多くのクラブで無料相談会は企画開催されていますが、本来の意味の職業奉仕と言えるのかどうかは悩ましいところです。

ええっ？ さっき大震災後の被災地の無料相談会は立派な職業奉仕だと言ったのに・・・、と思われるかもしれません。

このような無料相談会については、「職域侵害」になるのではないかと指摘があります。つまり、その駅前周辺では、すでに他の弁護士・税理士・建築士などが事務所を構えて商売をしているのです。ロータリーがそこに乗り込んでいって無料で相談会をすることは、その先人事業者にとっては迷惑以外に何ものでもありません。世の中のために良いことをしよう、「みんなのためになるかどうか」というロータリーの本分に反することにならないでしょうか。

では、被災地の無料相談会と何が違うのでしょうか。

先ほどご説明した、標準定款に追加された「外向き職業奉仕」の要件をもう一度見てみましょう。

- ①『自己の職業上の手腕を』
- ②『社会の問題やニーズに役立てるために』
- ③『クラブが開発したプロジェクトに応える』

ポイントは、②『社会の問題やニーズ』がそこにあるかどうかだと思います。大震災後の被災地では、法律問題、税務問題、建築問題が膨大に噴出していますが、現地の専門家自身も被災者であり、役所も大混乱しており、とても対処できません。まさに外部の専門家の支援を必要とする『社会の問題やニーズ』があるのです。そのような支援活動に対しては、歓迎されこそすれ、「職域侵害」との批判は出ないのです。

また、そのような専門家がない過疎地に行って無料相談会をやるのであれば、大歓迎されるでしょう。

これに対して駅前の「無料相談会」はどうでしょう。通りすがりの相談者は、タダで相談に乗ってもらえるのですから喜ぶのは当然です。しかし、果たしてそこにロータリアンの支援を必要とする『社会の問題やニーズ』があるのでしょうか。当地の事業者から歓迎されるような社会環境、ロータリークラブがあえて取り組むべき奉仕活動の社会的要請がそこにあるのでしょうか。その点をきちんと見極めないと、単なる自己満足に過ぎず、「職域侵害」との批判が出てしまう恐れがあるのです。

いろいろな考えがあると思います。ぜひ、クラブで議論をして見てください。

わかりやすい職業奉仕

まとめ

難しいイメージの「職業奉仕」ですが、印象は少し変わりましたか？
整理してみると次の様になります。

① 内向きの職業奉仕

ロータリアン一人一人が、日々のロータリー活動に参加する中で「奉仕の理念」を学び、それを自分の職場に持ち帰り、「奉仕の理念」「四つのテスト」に従って自分自身を律し、自分の職業で社会に貢献し奉仕しましょう！

② 外向きの職業奉仕

- (1) クラブの対外的奉仕活動として、社会の問題やニーズに応じて、
会員の職業上の手腕を役立てましょう！
- (2) 職業人の団体として、次世代に職業を語り伝えましょう！

なお、「内向き」と「外向き」、理解のために2つに分けましたが、決して別物ではなく、実質は同じです。どちらも「職業人が職業を通じて世の中に奉仕する」「職業で社会に貢献する」という目的は1つ。実践のルートが「自分の職場」か「クラブ」かに分かれるだけで、最後は1つに収斂していくのです。

「職業奉仕」って何ですか？

「職業奉仕」って何ですか？と聞かれたら、あなたは一言で答えられますか？

私はこう答えます。「**奉仕に学び、職業で奉仕する**」

まずは、ロータリーの奉仕活動に参加する中で、「奉仕の理念」を学びましょう。

我々ロータリアンは、奉仕活動の手続きやノウハウを学ぶことが最終目的ではなく、奉仕をして終わりでもありません。奉仕を学ぶのではなく、奉仕活動に参加する中で、奉仕の心、奉仕の理念を学ぶことが目的なのです。「**奉仕を学ぶ**」のではなく、「**奉仕に学ぶ**」。これがロータリアンの職業奉仕の第1歩です。

次に、そこで学んだ「奉仕の心」「奉仕の理念」「四つのテスト」を道しるべとして、職業を通じて行動します。それを自分の職場で、あるいはクラブにおいて、「職業で」世の中に貢献し、奉仕するのです。

「奉仕に学び、職業で奉仕する」

これぞ「職業奉仕」。他の慈善団体と一線を画し、ロータリーをロータリーたらしめる真髄、そして110年以上の永きにわたりロータリーを支え続けている根幹理念なのです。

以上

外向き職業奉仕の 実践例

1 職業上の手腕活用プロジェクト

- (1) カンボジアでの歯科検診と歯磨き指導(藤沢 R C)
- (2) 中学校での心肺蘇生法講習(葉山 R C)
- (3) 青少年自然体験プログラム「水源の森を訪ねて」(足柄 R C)
- (4) 花いっぱいプロジェクト(藤沢北 R C)

2 次世代に職業を語るプロジェクト

- (1) 伊勢原中学校「ふれあい講演会」(伊勢原 R C)
- (2) 小田原少年院での職業講話(小田原 R C)
- (3) さまざまな職業の方と語る会(大和 R C)
- (4) フィチャーナビスクール(相模原南 R C)



わかりやすい職業奉仕

職業上の手腕活用プロジェクト

藤沢RC

カンボジアでの歯科検診と歯磨き指導

会員の歯科医師椋梨兼彰氏が、2014年以来毎年、カンボジア国、シェムリアップにあるチェイ小学校(生徒数916名)の歯科検診・口腔衛生指導を行っています。現地NPO法人ハートオブゴールド(代表有森裕子氏)と連携しつつ、地区補助金を活用し、またクラブの支援を得ながら実施しています。事前調査で、日本の免許では治療はできないが、歯科検診と口腔衛生指導は可能であることがわかりました。現地では、元々歯磨き習慣も歯科治療という概念もなく、虫歯になっても抜けるに任せる状況で、先生も子どもらも検診の必要性を全く感じていなかったことから、十分な説明を行うことから始めました。最初は半信半疑の子どもたちも、次第に理解をし、列をなして検診の順番を待つようになりました。歯磨き指導も模型やぬいぐるみを使って楽しく覚えられるように工夫しました。その結果、当初は非常に高かったむし歯罹患率が年々改善しており、明らかな成果が現れています。また、賛同者が徐々に増えてボランティアツアーも企画されており、ロータリーの公共イメージ向上にもなっています。今後は、同校をモデルケースとして、同様の活動ができる地域を増やしていくこと、また日本の免許で治療ができるようにすることを目指して、関係省庁に働きかけていきたいと思えます。

(担当委員 瀧澤 秀俊)



職業上の手腕活用プロジェクト

葉山RC

中学校での心肺蘇生法講習

2016年4月、「私が助ける」「私が助かる」をテーマに、心肺蘇生法を葉山町の親子向けに開催しました。地区補助金を活用して、心肺蘇生訓練用模擬人体「ミニアン(CFR・AED学習キット)」を購入してスタート。2016-2017年度は葉山中学校2年生、同新2年生を対象に、2017-2018年度は南郷中学校3年生と、町内の中学生を対象に計3回実施しています。クラブ予算でもマネキンを追加購入し、現在45体を保有しています。当年度会長(奥山源一朗)が葉山中学校の卒業生で、恩師である校長先生の協力を得て、町内2校の中学校で実施することになりました。当初は葉山町、葉山消防署の協力を得てのスタートでしたが、葉山ハートセンターの医師である会員(小田利通)の職業的手腕を生かし、会員自らがインストラクターを務めるため心肺蘇生法訓練を学び、葉山消防署、葉山ハートセンターからも指導スタッフの協力を得て、これまで延べ約400名以上の生徒が受講しました。元々社会奉仕活動として立ち上げましたが、会員の職業上の手腕を活用する「職業奉仕」でもあり、かつ「青少年奉仕」の実践でもあると考えております。今後は、葉山町の中学校を卒業するすべての生徒が心肺蘇生法講習を受講することを目指しています。

(担当委員 菊池 尚)



職業上の手腕活用プロジェクト

足柄RC

青少年自然体験プログラム「水源の森を訪ねて」

「水源の森を訪ねて」プロジェクトは、次世代を担う青少年に自然資源の大切さを学んでもらう為に、「水源を訪れ人類に必要不可欠な水資源を観て学んでもらうこと、同時にそこでの広葉樹の植栽を通して、守り、そして引き継ぐべき自然資源と自然体系を学んでもらうこと」を目的として企画立案されました。実施場所は、南足柄市の水源となる南足柄市狩川上流水源地域。

2007年から2009年の3年間は、地元の岡本中学校から40～60名、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、地区役員、ロータリー会員など、総勢約100～130名が水源地を訪れ、ブナの幼木の植栽を行いました。実施にあたり、予め会員が水源地の下見と事前準備を行い、当日は会員の造園業者とその従業員が中心となって、生徒ら参加者に植栽の指導を行いました。その後、クラブの継続事業として、会員が植栽されたブナの幼木に添え木や剪定を施し、植栽地の草刈りなどの整備を毎年度実施しました。

2014年5月と2016年5月には、再び地元の中学校に呼びかけ、2014年は19名、2016年は30名の生徒の参加を得て、南足柄市の職員から「水資源」についてのレクチャーを受けた後、会員と共にブナの幼木を植栽しました。2回続けて参加した生徒もあり、水源への関心の高まりを感じました。

その後、植栽したブナの木が思う様に育たなかったため、会員の造園業者など専門家を中心に何回も打ち合わせを重ね、事業計画を見直し、2017-2018年度は地区補助金を活用してブナの生育に重点をおいた土壌改良を実施し、さらに2020年までの3ヶ年計画で成長を観察し事業の改善を図ることにしています。

(担当委員 小林 和彦)



職業上の手腕活用プロジェクト

藤沢北RC

花いっぱいプロジェクト

藤沢市で開催される2020年オリンピック(セーリング)などを含め、来訪者や市民の目を楽しませ、市のイメージ向上に寄与することを目的とし、また近隣住民や藤嶺学園藤沢中学校・高等学校の協力を得て、ロータリアンと市民とが共同作業することで、ロータリーの認知度と公共イメージの向上をめざしました。

2016年、地区補助金を得て11月11日に式典を開催し、植栽を実施しました。

藤沢橋上の歩道スペースにはプランター方式、遊行通り入口ロータリーには枕木方式の花壇に植栽しました。同クラブ会員の種苗業者が、植栽用具や花苗は準備を行いました。花の選択は、長期間花もちの良いもの、天候に左右されにくい品種、高低差のバランスなどを考えました。また、植え付け作業では、土を耕し、肥料を混ぜ、花苗を植えた後にたっぷりと水を入れるなど、専門業者の会員が参加者に細かく指導を行いました。広報では、タウンニュースをはじめ報道機関に連絡するとともに、花壇にロータリーマーク入りの看板を立てアピールしました。

(担当委員 瀧澤 秀俊)



わかりやすい職業奉仕

次世代に職業を語るプロジェクト

伊勢原RC

伊勢原中学校「ふれあい講演会」

2002-2003年度の社会奉仕委員長が、地区協議会に於いて高校生を対象にした職業についての卓話を実施しているクラブの事例や文化庁長官との懇談のなかで、中学校で当時始まった総合学習への対応に困っているとの話を聞き、地元の伊勢原中学校に打診したところ、是非にということで「ふれあい授業会」が始まりました。

当時は単年度事業と考えていましたが、毎年学校から依頼が入り、現在は「ふれあい講演会」と称して毎年1年生を対象に開催しており、クラブの代表的な青少年奉仕活動となっています。講師は会員の人脈を通じて選出しています。

2017年度の「ふれあい講演会」は「将来の自分の進むべき道を考える手だてとして、職業人の話を聞く中で、働くことの意義や職業に対する視野を広げる」ことを目的とし、1年生全員(263名)を対象に、地域の方々による職業に関するお話しを、40分講演を2回(生徒は2つの講演を聞く)実施いたしました。

内容は、①専門知識や技術を要する仕事(技術者、医師、保育士、弁護士、スポーツ選手など)、②芸能や芸術・マスコミの仕事(デザイナー、カメラマン、放送、新聞関係など)、③書類作成や整理する仕事(事務員、秘書、受付など)、④商品販売の仕事(店員、保険セールスなど)、⑤おもてなし対応したりする仕事(旅行観光ガイド、ホテルマン、理美容師、調理師など)、⑥人の安全を守る仕事(警察官、消防士など)、⑦自然や動物などを相手にする仕事(動物飼育係、調教師、農業、漁業、牧場作業員など)、⑧乗物を使って人や物を運ぶ仕事(電車、バス、トラック、タクシーなどの運転手)のなどから12講座を実施しました。

受講した生徒のアンケートには、「警察官や獣医師の仕事がわかりやすかった。」「なかなか聞くことのできない話をさせていただいたことが、とても今後に役立つと思います。」「今回話を聞いて私たちにはわからない 仕事内容などがわかりました。このことを将来にいかしていきたいです。」「陶芸家の説明がわかりやすかったです。」などがありました。

(担当委員 小泉 隆一郎)



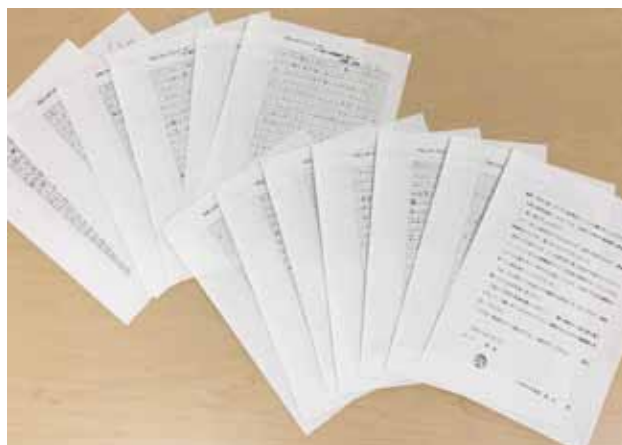
次世代に職業を語るプロジェクト

小田原RC

小田原少年院での職業講話

小田原少年院での講話は、元々1人の会員が少年院から直接依頼され個人的に対応していたものでしたが、2～3年続く内に、このような良い体験、良い活動は、自分1人ではなくクラブの会員全員に「超我の奉仕」や「出でて奉仕」として実践してもらいたい、またより多くの職種の職業講話ができた方が良くであろうという考えから、クラブとして引き継ぐことになりました。以来、約10年間、年2～3回程度、院からの依頼に応じる形で実施され、30名近くの会員が少年院に出向き、各々の職業について経験談や人生訓など、少年たちが社会に出るにあたっての心構えや心の拠り所になるような講話を行っています。クラブの継続事業として、社会奉仕委員会が実施しております。講話では、単に自身の職業の内容を語るだけではなく、社会の中での意義、社会との関わり、役割などについて話をするとともに、自分自身が「四つのテスト」に照らし合わせた行動ができているかどうか、事業に戻った時にロータリーの実践が出来るだろうかなどの話も含めて話をしています。少年ら中には、親の職業や自分の職業に劣等感を抱いている場合も多く、様々な職種の人が、どのような職業も社会で役に立っていることを伝えることも重要だと考えています。講話した会員の多くは、少年たちの純粋な反応を感じ取ったり、また少年らから届く感想文を読むことで、『超我の奉仕』『出でて奉仕』を身をもって体感でき、また人生観が変わったとまで感銘を受けた会員もいます。このように大変有意義な奉仕活動ですが、2019年3月で少年院の閉鎖が決まっており、残念ながら同事業も終了する予定です。

(担当委員 小林 和彦)



わかりやすい職業奉仕

次世代に職業を語るプロジェクト

大和RC

さまざまな職業の方と語る会

2007年11月13日、大和RCは、大和市立渋谷中学校において、「将来、仕事に就く君たちへ」と題し、職業人が生徒に職業を語る会を開催しました。警察官、理容師、料理人、大工、消防士、看護師等々、第一線で働く20名の若手中堅の職業人を集め、グループ分けした生徒らに熱く自身の職業を語りました。フリーターやアルバイトを転々とする若者を見て、職業に関する情報、就職の役に立つ情報が足りないのではないかと考え、専門的職業人の集団であるロータリークラブとして地域社会に何か役立てることはないかとの思いから企画したものです。参加した生徒からは「警察官は危険な仕事だと思うけど人の役に立つのなら僕もなりたいたいと思いました。」「看護師ってやりがいのある仕事だなと思いました。でも僕は体が弱いので多分僕にはできない仕事です。」「医療関係の仕事に就きたいと思いました。」など、素直な感想がたくさん寄せられました。大変有意義な職業奉仕企画になったと思います。

(担当委員 瀧澤 秀俊)

職業 ⑪ 看護師

【参加生徒名】

- | | |
|---|---|
| <p>1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ★藤、高橋、山本、林、川口、田中 ★佐藤、鈴木、山崎、小林、高橋、田中 ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 | <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 |
|---|---|



★今日はきてくださってありがとうございました。今日他田さんの話を聞いて、看護ってやりがいのある仕事だなと思いました。たぶん僕はできない仕事です。僕は見かけによらず弱り、体が弱くてよく風邪をひくので患者さんにつけてしまいがちで、でもなれることならなりたいです。僕はおじいちゃんとおばあちゃんが心配するくらいでよく看護師になれば僕が看護をしたいです。

★今日の話を聞いて、看護師のつらさや、楽しさ分かりました。看護師になると言うことは、とても、大変なんじゃないかな?と思いました。話を聞いて、良かったです。

人とふれあい、さまざまなこと
 ★いろいろなことを教えてくれた看護師になっている人なを切望する看護士になりたいと思いは大変だと思っただけです。な〜と思いました。でも、なくこわいな〜と思いました。看護士になりました。

★私が、他田さんの話を聞いて看護士になれることです。バツン言ってる人がいてびっくりしました看護士にはなれな〜と分かん

★私は人をたすけたり、人の役に立つ仕事や人のめんどう看護士になるために必要な事をたしました。これから人の役に立つ

★今日は色々教えてくれてありに興味があります。でも、看護士に大変興味をもちたいのでお願いします。

職業 ④ 自動車整備士

【参加生徒名】

- | | |
|---|---|
| <p>1年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 | <p>2年生</p> <ul style="list-style-type: none"> ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 ★山本、高橋、山本、高橋 |
|---|---|



がやりたいと思います。今日

★今日は本当に貴重なお話ご興味があって今日の体験「スカイライン」という車があった。お体に気をつけて、前

★自動車整備士になるには、士になれるとは思いません。果は、一目で直ると一週間は、

★今日は話を聞いて、整備士になるための資格や、行った方が資格が取りやすい最後のモチから質問するのにありがとうございました。ま

★思っていたより前車試乗なんだなと思った。細かいところするので大変な仕事だと分るのでとても責任感のいる自分の点検した車が走って

★今日は来てくださってありがとうございました。今日市原さんの話を聞いて自動車整備士をめぐしてみようかなと思いました。でもなるとしても僕はめんどうさかきやなので、市原さんの話してくださった一つめはもうほうでしかくを敢ると思っています。僕は今めざしているものが一つもありません。ですから自動車整備士になりたいと思いはじめたことはものすごく大きな一歩です。市原さん本当にありがとうございました。

次世代に職業を語るプロジェクト

相模原南RC

フィチャーナビスクール

現在、我が国の若者たちが、情報過多な社会情勢の中で、将来目指すべき職業についての不安や迷いが多くなっている状況から、職業奉仕活動の目標を『青少年育成支援』と定め、その一環として相模女子大学高等部1年生に対して『フィチャーナビスクール・出前授業』を実施致しました。

2016年から学校側と協議を重ね、生徒たちは将来社会に出ることについてどのような希望を抱いているか、またどのような職業について話を聞きたいかなど、全生徒から事前アンケートをとって戴きました。

2017年2月20日、職種ごとに教室や講堂に別れ、授業を実施しました。受講者生徒数341名、内訳はTVメディア132名、幼児教育64名、医療53名、歴史32名、農業18名、司法17名、介護と歯科医療10名、租税5名という結果でした。受講後の感想アンケートは約92%の313名より戴き、その中で理解できた、まあ理解できたが292名という結果を得ました。

また、次に受講してみたい講座については、TVメディアが94名、次いで歴史について65名、幼児教育について40名、医療について32名、法律司法について23名、農業について20名、介護について18名、租税・歯科医療について各々12名という希望を戴きました。現在はTVメディアの社会であり、また、女子高校生ということもあり、このような結果になりましたが、そのなかで、歴史と幼児教育に興味を抱いている生徒が意外に多いことが印象に残りました。

これからの日本を担う青少年に、自信と希望の道標の一助になって戴きたい。その一念で今後ともクラブの継続活動として続けて行きたいと考えております。

(担当委員 中村 辰雄)



2017-18 職業奉仕卓話講師派遣一覧

	クラブ	卓話日		担当委員	
1	茅ヶ崎	2017年8月31日	木	佐藤 忠 副委員長	相模原東RC
2	小田原城北	2018年1月16日	火	小林 和彦 副委員長	小田原城北RC
3	相模原大野	2018年1月17日	水	中村 辰雄 委員	相模原南RC
4	相模原ニューシティ	2018年1月18日	木	佐藤 忠 副委員長	相模原東RC
5	湯河原	2018年1月19日	金	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
6	かながわ湘南	2018年1月20日	土	鳥海 衝一 委員	平塚RC
7	茅ヶ崎中央	2018年1月23日	火	鳥海 衝一 委員	平塚RC
8	相模原中	2018年1月23日	火	櫻内 康裕 委員	相模原中RC
9	大 和	2018年1月23日	火	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
10	座 間	2018年1月24日	水	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
11	平塚西	2018年1月24日	水	鳥海 衝一 委員	平塚RC
12	相模原東	2018年1月29日	月	佐藤 忠 副委員長	相模原東RC
13	相模原柴胡	2018年1月29日	月	櫻内 康裕 委員	相模原中RC
14	平塚北	2018年1月30日	火	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
15	藤 沢	2018年1月31日	水	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
16	綾 瀬	2018年2月6日	火	佐藤 忠 副委員長	相模原東RC
17	横須賀西	2018年2月8日	木	菊池 尚 委員	逗子RC
18	小田原中	2018年2月8日	木	小泉 隆一郎 委員	伊勢原RC
19	第2グループIM	2018年2月10日	土	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
20	秦 野	2018年2月20日	火	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
21	海老名櫛	2018年2月22日	木	小泉 隆一郎 委員	伊勢原RC
22	厚木中	2018年2月28日	水	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
23	相模原南	2018年3月13日	火	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
24	箱 根	2018年3月27日	火	佐藤 忠 副委員長	相模原東RC
25	藤沢南	2018年4月16日	月	大小原 徹 委員	藤沢RC
26	平 塚	2018年5月17日	木	鳥海 衝一 委員	平塚RC
27	大和田園	2018年5月18日	金	小林 和彦 副委員長	小田原城北RC
28	津久井中央	2018年5月24日	木	瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC
29	厚木県央	2018年6月8日	金	佐藤 忠 副委員長	相模原東RC
30	Eクラブ	卓話原稿		瀧澤 秀俊 委員長	藤沢RC

※クラブ数/例会卓話29クラブ、IM 5クラブ、合計34クラブ

アンケートに寄せられた声の一部

- 自分の仕事に通じることが多く感じられました。職業を通じて、会社の成長と社会への奉仕、ロータリアンとしての行動を意識しようと思いました（相模原大野）
- 聖職者の心を持ってーこれは非常にわかりやすく職業奉仕の理解につながりました（大和）
- 職業で奉仕する中で、内向き外向きの考えは明解で素晴らしい。四つのテストの重要性を改めて確認できた（座間）
- 職業奉仕は稼いだ金で寄付することではないーこのことがクリアになり、喉に刺さった骨が取れた思いです（平塚北）
- 職業奉仕は高い理想だとわかりました。本日より四つのテストを私の会社の社訓にします（藤沢）
- 職業奉仕という言葉は便利に使っていましたが、本当は違うと言うことがわかりました（相模原中）
- 職場に戻って自分の働き方を四つのテストと照らし合わせてみます（IM）
- 経営判断にロータリアンとしての視点も加味するということがよくわかりました（厚木中）
- 内向き外向きの考え方はとても勉強になりました。ロータリーの歴史を勉強する中でモヤモヤしていたことがすっきりしました（厚木中）
- かねてからの職業奉仕の理解と、最新かつグローバルな外向き職業奉仕を簡潔に関連付けた説明は圧巻（津久井中央）

資料編

1 職業宣言と行動規範の変遷

「ロータリアンの職業宣言」

「ロータリーの行動規範」

「ロータリーの行動規範」改訂

「ロータリアンの行動規範」再改訂

2 ロータリー章典

3 標準ロータリークラブ定款

第6条 五大奉仕部門



職業宣言と行動規範の変遷

「ロータリアンの職業宣言」(1989年規定審議会採択)

事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請に応えんとするものである。

1. 職業は奉仕の一つの機会なりと心に銘せよ。
2. 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳的基準に対し、名実ともに忠実であれ。
3. 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
4. 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他の専門職務上関係をもつすべての人々に対し、ひとしく公正なるべし。
5. 社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
6. 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
7. 広告に際し、また自己の事業または専門職務に関して、これを世に問うに当っては、正直専一なるべし。事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めず、また与うることなかれ。

※職業を離れている会員がいることに配慮し、「ロータリアンの職業宣言」が「ロータリーの行動規範」と改編された。

「ロータリーの行動規範」(Rotary Code of Conduct 2011年9月RI 理事会)

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1) 高潔性(Integrity)という中核価値をすべての行動や活動において実例として示すこと。
- 2) 私の職業上の経験や才能をロータリーの奉仕に活用すること。
- 3) 私の個人生活、職業生活のすべての場面で、他者への範例となるように、倫理的に、そして高い倫理基準を奨励・育成するよう行動すること。
- 4) 他者とのすべての(商)取引において公正であること。そして、彼らを人類の同胞として当然払うべき敬意をもって遇すること。
- 5) 社会に役立つすべての仕事に対する認識と敬意の念を促進すること。
- 6) 自己の職業上の才能を捧げて、青少年に機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めること。
- 7) ロータリーと同僚ロータリアンがもたらす信用に敬意を表すること。そしてロータリーまたは同僚ロータリアンに不評や不利な状況をもたらすようなことは一切しないこと。
- 8) 事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めないこと。

「ロータリーの行動規範」改訂(2014年1月RI理事会)

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
5. 事業や職業における特典を、ほかのロータリアンに求めない。

「ロータリアンの行動規範」再改訂(2014年10月RI理事会)

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2. 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3. 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4. ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
(第5項削除)

ロータリー章典 2018年1月

8.030. 職業奉仕の基本原則

8.030.1 職業奉仕に関する声明

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想の実践をロータリーが培い、支援する方法である。

「ロータリーの目的」第2項は職業奉仕の基礎として、具体的には、以下を奨励し、育む。

- ・ 職業上の高い倫理基準
- ・ 役立つ仕事はすべて価値あるものとの認識
- ・ 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする

上記の職業奉仕の理想に本来込められているのは次のものである。

- 1) 雇主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべての公正な扱い。
- 2) 自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること。

職業奉仕は、ロータリークラブとクラブ会員両方の責務である。クラブの役割は、頻繁に職業奉仕を実践することによって、クラブ自身の行動に職業奉仕を応用することによって、模範となる実例を示すことによって、目標を実践、奨励することである。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って自らの行いと事業と職業を律すること、また、クラブが開発したプロジェクトに応えることである(2014年1月理事会会合、決定88号)。

出典：1987年10～11月理事会会合、決定164号。2014年1月理事会会合、決定88号により改正。
2001年6月理事会会合、決定352号により確認

8.030.2 ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1) 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 2) 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 3) 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
- 4) ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
(2014年10月理事会会合、決定60号)。

出典：規定審議会89-148。2011年5月理事会会合、決定204号。2011年9月理事会会合、決定87号。
2013年10月理事会会合、決定31号。2014年1月理事会会合、決定88号。2014年10月理事会会合、決定60号により改正

8.030.3 職業奉仕に関する重要なメッセージ

ロータリアン、クラブ、および地区は、職業奉仕の支援において以下の戦略を実施すべきである。

- ・ 会員の勧誘と入会において、職業と職業分類の重視を強化する。
- ・ クラブの活動において職業を重視する手段を特定する。
- ・ クラブおよび地区レベルのロータリーにおいて、高潔の精神でビジネス・ネットワークを広げる活動をさらに強調する。
- ・ 新世代の勧誘と指導の手段として、高潔の精神でビジネス・ネットワークを広げる活動をさらに重視する。
- ・ 「四つのテスト」と「ロータリーの行動規範」の関係、さらにこれらがロータリーの価値観においていかに重要かを強調する(2012年1月理事会会合、決定158号)。

出典：2011年5月理事会会合、決定204号。2011年9月理事会会合、決定87号により改正

標準ロータリークラブ定款

第6条 五大奉仕部門

ロータリーの五大奉仕部門は、本ロータリークラブの活動の哲学的および実際的な規準である。

1. 奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである。
2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うこと、そして自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えることが含まれる。
3. 奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みから成るものである。
4. 奉仕の第四部門である国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものである。
5. 奉仕の第五部門である青少年奉仕は、指導力養成活動、社会奉仕プロジェクトおよび国際奉仕プロジェクトへの参加、世界平和と異文化の理解を深め育む交換プログラムを通じて、青少年ならびに若者によって、好ましい変化がもたらされることを認識するものである。

編集に寄せて

地区幹事	栗林 一郎	(相模原南RC)
担当副幹事	一ノ瀬 裕	(相模原南RC)
地区職業奉仕副委員長	佐藤 忠	(相模原東RC)
地区職業奉仕副委員長	小林 和彦	(小田原城北RC)
地区職業奉仕委員	菊池 尚	(逗子RC)
地区職業奉仕委員	大小原 徹	(藤沢RC)
地区職業奉仕委員	中村 辰雄	(相模原南RC)
地区職業奉仕委員	櫻内 康裕	(相模原中RC)
地区職業奉仕委員	小泉 隆一郎	(伊勢原RC)
地区職業奉仕委員	鳥海 衡一	(平塚RC)



わかりやすい職業奉仕

地区幹事 栗林 一郎(相模原南RC)

発刊にあたり1年間職業奉仕委員会に出席させていただき、私自身も職業奉仕について勉強させていただきました。瀧澤委員長をはじめ各委員の皆様、ありがとうございました。感謝申し上げます。

ロータリークラブは規定審議会で従来の規定を柔軟に考えるように変わりました。そして今年度のRI会長テーマも「ロータリー;変化をもたらす」とあるように、ロータリークラブも変革期を迎えてきているのではないのでしょうか？(私はそのように思います)そのような中で、職業奉仕の基本は変わらないはずですが、今までの解釈は曖昧又は難しいところもあったと思います。それを今回の委員会では大変わかりやすく表現してくれました。それが今回の『「内向き」と「外向き」わかりやすい職業奉仕』だと思えます。読んでいただいている中には厳しいご意見もあるかと思いますが、決して経営判断を押し付けているものではなく、判断材料の1つとして説明しています。利用するかしないかは経営者次第。こういう考え方があるとご理解いただければありがたいと思います。職業奉仕をわかりやすく説明していますので、理解する一助になるのではないかと思います。

私はとても楽しく委員会に参加させていただきました。瀧澤委員長は「地味な委員会」と仰いましたが、地味な委員会がやりがいのある楽しい委員会になったのではないのでしょうか？特にこのパンフレットは、大谷ガバナー年度の活動の1つとして記録にも、記憶にも残るものになったと思います。

瀧澤委員長、委員の皆様1年間ありがとうございました。

担当副幹事 一ノ瀬 裕(相模原南RC)

私は前年度に地区職業奉仕委員を担当させて頂きましたが、職業奉仕の卓話をするにあたって、ロータリーの歴史や諸先輩の職業奉仕の文献を勉強させて頂きまして大変貴重な体験をさせて頂きました。各年度の委員長により職業奉仕論の解説の力点が多少違うことはありますが、職業奉仕がロータリーの金看板であること、ロータリーは各人の職業を社会に奉仕する機会として自覚させるのに大きな影響を及ぼしているという根本は変わっていないと思います。当年度の委員長の卓話は、実社会の中での経済取引の実例を挙げて、職業奉仕論に繋げるような具体的でわかりやすいものとなっていると思います。この度は2780地区職業奉仕委員会の冊子として18年ぶりに発行されることに感謝申し上げます。

地区職業奉仕副委員長 佐藤 忠(相模原東RC)

直前年度第5グループのガバナー補佐としての任務を全うし、ひと息入れようとしたところガバナーズグループでもあり、協力してほしいとの要請からお受けさせていただきました。

ロータリーには「職業奉仕」という看板がある。「職業奉仕」は、ロータリーがロータリーである所以の奉仕であり、他の団体との違いはここにあると言われ今日に至っております。この難解を説いて「卓話」に臨もうと、前半は委員会での勉強会を主に考えをまとめました。それが瀧澤委員長の「奉仕に学び 職業で奉仕する」～内向きと外向き 解りやすい職業奉仕～ のパワーポイントです。このパワーポイントが今年度の「卓話」テキストとなり、委員全員で手分けし「卓話」に臨みました。「卓話」終了後に記していただいた「感想アンケート」では、概ね好評をいただいたと受け止めております。

しかし、卓話訪問を重ねていくうちに、2016年の規定審議会で、「会員身分」や「例会頻度」「職業分類」また、「ロータリアンの行動規範」等々が柔軟性、多様性の名のもとに改正されたが故、ロータリーの「職業」で「奉仕」に違和感と疑問を覚えました。

ロータリーの職業奉仕でいう、「職業を通じて社会に奉仕する」の「理想」と「現実」が気になります。ロータリー：変化をもたらす…「職業奉仕」を特長とするクラブから、団体に奉仕するクラブへと変わりつつあるのでしょうか。職業奉仕の考えが希薄となり矮小化傾向になり、他の団体との差別化が無くなりつつあるように思えてなりません。

ロータリーの職業奉仕は、奉仕の理念の理解であり実践です。まずは、クラブ内で職業倫理を学ぶ機会を積極的に増やしましょう。

職業奉仕の核心にブレが…疑問を投げかけながら“インスピレーションをもとう”次年度も…
瀧澤秀俊職業奉仕委員長の職業奉仕に対する意気込み、熱い思いが発刊に結びつきました。バイタリティーまた強力なリーダーシップ、ご尽力に敬意を表します。

地区職業奉仕副委員長 小林 和彦(小田原城北RC)

前年度に引き続き、地区の職業奉仕委員会に参加できたことはロータリー活動の中でも非常に良い経験となりました。前年度は地区の職業奉仕委員会として各クラブより依頼された卓話でお話しする内容を一本化することを目的に基本的な内容をパワーポイントでまとめ上げました。

本年度では規定審議会で重大改正を受け、本冊子で取り上げている「内向き職業奉仕」「外向き職業奉仕」の考え方を各クラブに伝えていく最初の年となりました。理解が難しいとされていた道徳的な価値観を主とする「内向き職業奉仕」に対して、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えること」という文面(外向き職業奉仕)が追加されたことで、各クラブの職業奉仕活動がすべき活動内容が明確になったことは非常に重要だと感じています。

卓話資料では、職業奉仕の実践をあえて極端な表現をすることで問題提起を行い、職業奉仕について再考を促しつつ「外向き職業奉仕」の具体的な活動内容を示すことで、分かりやすい卓話が届けられたと感じています。その活動に参画できたことは貴重な経験であり、瀧澤委員長の指導力にも感銘しました。

この活動を自クラブで展開できるかが今後の課題であり、個人としても職業奉仕の理念に近づけるよう日々励みたいと思います。

わかりやすい職業奉仕

地区職業奉仕委員 菊池 尚(逗子RC)

地区職業奉仕委員会にはじめて出向しての感想を少し述べさせていただきます。私はクラブの職業奉仕委員長の経験もし、自分なりに「職業奉仕」を学んで来たつもりですが、未だに、新会員に職業奉仕を簡単に説明するのには苦労があります。ところが、地区職業奉仕委員会に参加して『「内向き」と「外向き」分かりやすい職業奉仕』というタイトルで学ぶことにより、職業奉仕活動が大変に身近なものに感じる事が出来るようになりました。そして、地区委員として、はじめて他クラブでの卓話も経験し、近隣のクラブでもあることから、楽しく卓話をする事ができました。瀧澤委員長の資料を何度も読み込みして、何とか30分に収める事が出来ましたが、「外向きの職業奉仕」について、どこまで意を伝える事が出来たかは、少し不安ではあります。

また、外向きの職業奉仕実践例の取材を通じて、他クラブの職業奉仕活動を学びました。隣のクラブでしたので、少々予備知識はありましたが、直前会長への取材とたくさんの資料から、原稿にまとめるのに結構苦労しました。しかし、その分、活動内容への理解が進み、地域への職業奉仕についてもよい勉強する事が出来ました。本年、地区職業奉仕委員会に出向して、クラブの中だけでは得ることの出来ない、多くの経験と勉強をすることが出来、瀧澤委員長と委員の皆様には大変感謝致しております。

地区職業奉仕委員 大小原 徹(藤沢RC)

藤沢ロータリークラブに入会して5年目で、初めて地区委員として委員会に出席させていただきました。「職業奉仕＝職場見学会」的な浅薄な知識しか持ちえない私にとって地区の職業奉仕委員会が何をするとところなのか、何を目的としてどのような結果を得ようとしているのか、最初はまったく理解できず、ただ周囲の皆さんの議論を聞いているだけでした。しかし会を経るに従い、各クラブから参加されている委員の皆さんの真面目で熱い議論を聞いているうちに徐々にありますが、職業奉仕に関する知識と理解が深まってきました。大谷ガバナーのご挨拶とその真摯なお人柄に深い敬意を抱くとともに、瀧澤委員長の強いリーダーシップと佐藤、小林副委員長のサポートが素晴らしく今回のパンフレット発刊という成果に至ったことは大変誇らしいことだと感じています。

最後に「職業を通じて利益を得てそれを社会に還元する」とともに「損得から離れて物事を正しく判断していくこと」がロータリアンとしての生き方に求められているのだと強く感じました。

地区職業奉仕委員 中村 辰雄(相模原南RC)

職業奉仕の趣旨について、難しい、理解しにくいなどとよく耳に致して参りましたが、私は職業奉仕であれ社会奉仕であれ、『奉仕』という概念を包摂的に思い活動して参りました。奉仕される方から感謝と喜びの気持ちを戴く、その一念のみで、各奉仕活動を実施参りましたが、しかし、

日本が現在のような変革期を迎えている社会情勢のなかにおいて、我が国の将来を担うべき青少年(中・高校生)たちが、自ら志す夢と希望、そして社会人として就くべき職業について迷妄していることを、たびたびメディアや新聞などで報道されております。また、発展途上国においては、昭和の負の遺産による危険な環境と劣悪な環境のなかで、生活を余儀なくされ続けている国々、このような世界の状況下において、多様な情報網に惑わされている。青少年たちへ社会人として自信に満ちた将来を送って戴きたい、些少なりともその礎になることを我々ロータリアンが道標となってゆくことが、これからの職業奉仕の最も大切な奉仕活動ではないかと思っております。

私どものクラブ活動計画に『青少年育成』を掲げている。そのなかに青少年への『出前授業』活動があり、昨年実施致しました後に、生徒の皆さんから戴いた感想アンケートから各々の職業についていろいろなご意見を戴いたことは今後の青少年育成への重要な資料となっております。

この一つの実例からも今回の職業奉仕委員会で発した『外向き職業奉仕』という概念は国際ロータリークラブの本願であります。『超私の奉仕』という普遍的奉仕活動の根幹となってゆくことになるだろうと思っております。

最後に瀧澤委員長始め職業奉仕委員の皆様が、各クラブで卓話され、多くの会員の皆様より、『生の声』のアンケートを戴きましたことは、今年度の職業奉仕委員会の最大の実績『真実の証』として、次年度へ引き継がれ、さらに精進されますことを、至心よりご祈念申し上げまして末尾と致します…。

地区職業奉仕委員 櫻内 康裕(相模原中RC)

2017年～2018年度に地区職業奉仕委員に拝命され大変難しい委員会になってしまったなど感じておりました。「答えがあるようでない」とよく言われていた事や、職業奉仕は「わかりにくい」と言われていた事もあり、どのように携わっていけるか心配でもありましたが、瀧澤委員長初め委員の皆さんのサポートがあっただけで少しずつ理解をして来ました。資料もパワーポイントにて外部卓話に参加もしましたが皆さんに伝わるかどうか心配でもありましたが、今までの職業奉仕の理解が少しでも伝わったんじゃないかと思えました。

職業奉仕も『四つのテスト』が大前提、会社でいうなら社でありそれに従って行動する。又は道しるべなんだなと学ぶ事が出来ました。今年は内向きの職業奉仕、外向きの職業奉仕と分けた事でわかりやすくなったと思います。私も実践していけるよう精進したいと思えます。

最後に瀧澤委員長の素晴らしい熱意によりロータリーをまた理解する事が出来ました。感謝申し上げます。委員の皆さんとも会合や親睦も出来良い委員会であったと思っております。

わかりやすい職業奉仕

地区職業奉仕委員 小泉 隆一郎(伊勢原RC)

2015-16磯部義彦委員長、2016-17石崎孝委員長、2017-18瀧澤秀俊委員長と3年間にわたり地区の職業奉仕委員会で勉強をさせて頂きました。この3年間で地区の職業奉仕の考え方が変化してきたことを強く感じました。それは、2016年度規定審議会、標準定款第6条の奉仕の第2部門「職業奉仕」の定義が追加改正されたことが大きいと考えており、特に「…自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てるために、クラブが開発したプロジェクトに応えること…」によりロータリークラブは、もっと公益的な事業を行い社会から必要とされる団体を目指すことを目的とする事だと思います。今年度瀧澤委員長のもと「内向き・外向き」職業奉仕と分けることにより解りやすく理解でき、毎年恒例の各クラブへの職業奉仕の卓話に望むことができました。初めて出席させて頂くクラブばかりで、緊張の中、不慣れな講演でご迷惑をお掛けしたと思いますが、皆さん温かく受け入れて下さるクラブばかりでこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。最後にこのパンフレットをとおして多くの外向き職業奉仕事業が各地域で行われることを祈ります。

地区職業奉仕委員 鳥海 衡一(平塚RC)

私はタクシー会社を経営していますが、安全、安心をもって事業が成り立っています。この中で職業奉仕に通ずるものがあります。

当社の運転手は毎日24時間、365日、

1. お客様の言う通りの順路で目的地までいく
2. さらに安全で安心して利用できるようにする
3. お客様の喜んでいることを自分の喜びにする

このことを実践しています。しかし、安全、安心はお客様だけのものではありません。それは、私たちの仕事は一般の道路を使用して商売をしているので市民の皆さんの安全、安心も確保しなければならない使命があります。だから、運転手はいつも自分以外の人達に感謝念をもって行動(仕事)をしなければならないと思います。

そんな運転手を指導教育してたくさん育てていくことが私の使命であり、それが私の職業奉仕につながるのではないかと考えています。常に「四つのテスト」を大切に思い、いつも利他の心をもって行動すると結果、利己も良くなると考えて仕事も生活もしていこうと考えています。

「内向き」と「外向き」
わかりやすい職業奉仕

発行 平成30年6月

編集 国際ロータリー第2780地区
地区職業奉仕委員会
委員長 瀧澤 秀俊

印刷 株式会社さんこうどう

